

文部科学省におけるEBPMの取組

第2回 EBPM推進委員会
令和8年9月18日（金）

第7期「科学技術・イノベーション基本計画」のポイント

<現状認識>

科学技術・イノベーションを巡る情勢

- ・ 基礎研究から社会実装までの加速度的短縮と「科学とビジネスの近接化」
- ・ 破壊的技術を巡る実装競争の激化
- ・ 科学技術・イノベーション政策の「安全保障化」と戦略技術の囲い込み
- ・ AIと科学の融合による研究開発パラダイムの転換
- ・ 国際的な科学技術人材の獲得競争の激化

我が国の課題

- ・ 研究力の低下
トップレベル論文数指標の国別ランキング下落：
4位(2000年初頭)→13位(2021-2023年)
博士号取得者数が横ばい：1.5万人(2022年度、米中の1/5以下)
- ・ 研究開発投資の伸び悩み
官民研究開発投資額：20.4兆円(2023年、米中の1/4以下)

<目指すべき未来社会>

- ・ 科学技術・イノベーションの強力な推進により、新たな技術領域における成果創出が進展し、持続的な経済成長が確保され、更なる科学技術・イノベーションを生み出す好循環を作り出し、様々な社会課題解決への道筋が提示されるとともに、国家安全保障が確保されている「豊かで安全・安心な社会」
- ・ 誰もが心身ともに「豊かで」「活力があり」「希望にあふれた」人生を送ることができる、一人ひとりの多様なwell-beingにチャレンジし、実現できる社会

<第7期基本計画の方針>

科学技術・イノベーション政策の転換

- ・ 科学研究と社会実装の一体的推進
- ・ 国家安全保障政策との有機的連携の強化
(デュアルユース技術を含む先端技術の開発研究等の推進)
- ・ 科学技術外交を国家戦略として位置付け

科学技術・イノベーション推進システムの刷新

- ・ ヒト：世界標準の人材システムの構築
(高度な専門性を持った人材が行き交う環境を整備)
- ・ カネ：挑戦とイノベーションを支える投資と成果の好循環
- ・ モノと情報：知と価値を創出する共用基盤の高度化
(モノの「共有」という価値観、開かれた研究・実装インフラの形成)

科学技術を国力の源泉に
イノベーションを生み出すための日本全体の社会システムの
再構築を目指す

トップレベル論文数指標
世界第3位へ

第7期基本計画の6つの柱

官民の研究開発投資の拡充

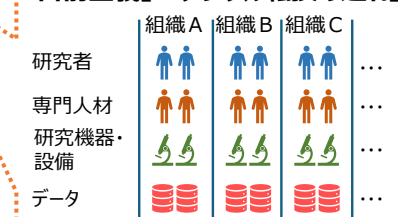
政府目標：60兆円※
官民目標：180兆円

※従前の考え方に基づく45兆円に、多様な財源や政策ツールを加えた目標。

- ① 知の基盤としての「科学の再興」
- ② 技術領域の戦略的重点化
- ③ 科学技術と国家安全保障との有機的連携

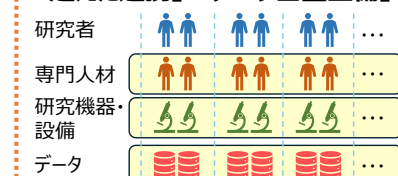
- ④ 産学官を結節するイノベーション・エコシステムの高度化
- ⑤ 戦略的科学技術外交の推進
- ⑥ 推進体制・ガバナンスの改革

現状の課題として、「縦割り」・
「自前主義」・「デジタル転換の遅れ」



推進システムの刷新

「レイヤー構造」・「分野・組織を
超えた連携」・「データ基盤整備」



科学技術・イノベーション政策（STI政策）を取り巻く現状

- 科学の重要性が増している一方で、我が国の研究力は諸外国に比べて相対的に低下
- AIの急速な普及等により、**科学の構造自体が大きく変化**しており、科学を支えるシステムそのもののアップデートが必要。文部科学省としても、**柔軟かつ戦略的に政策形成プロセスを見直し、**政策の高度化を図る必要がある

我が国の科学の現状

1 科学の重要性

不確実性が高まる中で、社会経済の発展、安全保障など様々な面で科学の重要性は増している

2 研究力の相対的低下

論文数、Top10%補正論文数という観点では、日本の研究力は諸外国に比べて相対的に低下。研究者が研究活動に割ける時間も減少傾向

科学を取り巻く環境変化

3 科学とビジネス・国家安全保障の近接化

基礎研究から社会実装までの時間が短縮するとともに、科学技術と安全保障が不可分な関係に

4 AIの急速な普及

AIの普及により、科学の構造が大きく変化する中で、我が国としてもAI for Scienceの取組を推進

STI政策を取り巻く環境変化

5 柔軟かつ戦略的な政策形成の必要性

科学の構造自体が大きく変化する中で、柔軟かつ戦略的な政策形成プロセスの確立が必要

6 EBPM/EIPM(evidence-informed policy making)

エビデンスに基づき施策を評価・検証するだけでなく、エビデンスを活用して戦略的に政策形成することが必要

今後取り組む課題例

	第7期基本計画上の課題	領域	課題意識
エビデンスそのものをどう作るか	【研究力】 (研究時間の減少、Top10%論文で見た研究力の低下など)	①研究力	我が国の研究力をどのように継続的かつ多面的に把握するか ・論文数・Top10%補正論文数だけで「研究力」を評価することは適当か
	【研究資金制度改善】 (申請書作成や審査の負担軽減、不確実性への投資、分野硬直性の打破)	②ファンディング	研究資金の配分及びマネジメントの最適解は何か ・研究開発を効率的・効果的に進めるための、基盤的・競争的研究費の最適配分は何か ・ピアレビューによらないファンディング手法など、競争的資金の審査・採択をより効率的・効果的に進める方法は何か
	【人材】 (博士号取得者、産業界での採用者数の伸び悩みなど)	③研究環境	STI人材の需給及び能力のミスマッチはどこで生じているか ・研究活動にAIを使うことが当たり前になる中で、研究者の能力をどのように定義するか
	【国際】 (研究者の国際ネットワークへの参加は限定的など)		我が国の研究人材の国際流動をどのように把握するか ・研究者が国外に出ることで、自身の研究テーマ等にどのような影響を受けるか
	【イノベーション（スタートアップ）】 (スタートアップへの投資が限定的など)	④イノベーション基盤	イノベーションは、どのような経路を通じて経済・社会的価値につながるか ・ディープテックスタートアップに必要な要素は何か
	【研究開発投資】 (官民研究開発投資の伸び悩みなど)		科学とビジネスの近接化は、どの領域で、どのように進んでいるか ・研究開発投資の効果として何を設定すべきか
エビデンスをどう使うか	【今後の課題】 (政府が直面する新たな課題)	⑤横断的課題 (①～④の前提となる課題)	AX時代の研究活動及び研究評価の変容をどのように把握するか ・社会動向の変化の中で、科学技術政策が考慮すべき地殻変動は何か

文部科学省におけるSTI政策形成プロセス改革の全体像

- **第8期STI基本計画**を見据え、最新の知見を踏まえたエビデンスに基づき、合理的かつ柔軟な政策形成を行うための**体制整備**や**人材育成**を行うことで、文部科学省のSTI政策形成プロセス改革を推進
- NISTEP・CRDS・大学等の知見を活用した**新たな政策形成プロセス確立のための調査・研究開発**を強化するとともに、各機関の相互連携により**新たな時代のSTI政策立案を担う人材育成**を進める。

